

大分県立フェンシング場 将来ビジョン

施設の今後のあり方

**存続
(利活用)**

理由

- ①県内唯一のフェンシング専用屋内施設で、小学生から社会人が、週4日～5日利用。
- ②東京2020オリンピックに本県ゆかりの選手が3名(※)出場、これまでの国体での本県内の競技別得点の合計が2位と、今後も強化戦略上最重要競技の一つとして、重点強化を図る。
- ③本県フェンシング競技の競技水準の高さに加え、東京オリンピックによるフェンシング人気もあることから、今後の安定的な利用が見込まれる。

※ 男子フルーレ個人第4位の敷根崇裕選手、
女子フルーレ個人第6位の上野優佳選手、
女子サーブル個人ベスト16の江村美咲選手。

①～③の理由により、本県フェンシング競技の拠点施設として、競技力向上のため引き続き存続する必要がある。

目指すべき
施設像

長期的展望に立った選手強化を図り、フェンシング競技の競技力向上に寄与できる施設。

目指すべき
利用者像

- ①初めてフェンシングを体験する小学生及びジュニアクラブの選手
- ②高校のフェンシング部で活動する生徒
- ③国内外の大会を目指す大学生及び社会人
- ④県外の優秀チーム(選手)

定量的目標
達成指標

年間利用者数の増
令和5年度～令和9年度 12,000人/年
(現状・・・9,417人)

定性的目標
達成指標

フェンシング競技の普及振興
(タレント発掘、体験教室等をマスメディア、ホームページ、SNS)

主な課題
と解決策

競技人口の減少、健康で活力に満ちた長寿社会を実現するため高齢者の運動機会の創出には、小学生向け体験教室の充実及びフェンシング競技以外での高齢者向けの健康・体力づくり教室の導入が必要。利用者の安全・安心な施設利用も課題。

【課題】

①少子化による競技人口の減少、健康で活力に満ちた長寿社会を実現するため、高齢者の運動機会を創出すること。

②利用者が安全・安心に施設利用できること。

【解決策】

①県フェンシング協会と連携し、小学生対象フェンシングの体験教室を充実。
また、フェンシング以外で、高齢者向け健康・体力づくり教室を実施する。

②利用者ニーズを踏まえ、施設・備品等の充実を図る。